

5つのレベルに応じた不登校対応例

令和8年4月
枚方市立開成小学校

学校対応

連携対応

レベル1

連続欠席が2日、または月間の断続的欠席が3～5日

担任による電話連絡【実態把握】

- 欠席理由
 - 医療機関への受診の有無について
 - 次の登校時の連絡など
- ※欠席理由が不明瞭な場合、家庭訪問等で確認する場合もあります。

学級・学年・教科など、学校内での情報共有

- ①学級での様子
- ②人間関係
- ③学習状況の確認
- ④スクリーニングシート
の作成等

不登校対策委員会で検討

チェック

保健室への来室状況
なども有力な情報
になります。

レベル2

連続欠席が3日以上、または月間の断続的欠席が6～9日

担任による家庭訪問【実態把握】

- 子どもの表情・様子
 - 家庭の養育環境
 - 子どもの生活リズム
 - 保護者の見立て
 - 子どもの友人関係
 - 登校への意欲レベル
 - 子どもと保護者の関係性
- などに注意してお子さまの様子を確認します。

教育委員会やSC・SSWとの連携

- ①養育環境
- ②学校での様子
- ③学習状況
- ④過去の欠席状況
- ⑤支援を要する場合の対応

ケース会議

情報共有した内容
は、学校全体で共
有します。

レベル3 長期欠席（学期内で10日以上、年間30日以上）かつ、家庭と連絡が取れる状態

① 学校とのつながりを切らない

- ・電話・タブレットを活用した継続的な連絡、家庭訪問
- ・行事への参加の仕方でも家庭と相談

② 保護者、本人の意向の確認

- ・学習の仕方の確認（タブレットの活用等）
- ・SC、SSW等専門家へつなぐ
- ・別室対応(校内教育支援ルーム)

行内体制を確保しながら個別に対応していきます。

学校外の組織との連携

- ①教育支援センター「ルポ」（毎年登録・入室手続きが必要）
枚方市教育文化センター別館1F（TEL：050-7102-3154）
・学校を通さず直接家庭からの申込みできますが、登室状況はセンターと学校で情報共有を行い、子どもの支援を行います
- ・登室・訪問指導
- ・学校と連携・出席扱い(校長裁量)
- ②院内学級
- ③フリースクールなど
- ④その他必要に応じてつなぐ関係機関
・医療・診療内科（発達の課題）・少年サポートセンター（非行）など

レベル4 長期欠席（学期内で10日以上、年間30日以上）かつ、家庭と連絡が困難な状態

① SC、SSW等の専門家を交えたケース会議を行う

目的意識を持った組織的な対応

② 長期的に連絡が取れない場合、学校には公的関係機関への通知や通告義務があります。

重大事案を想定した連携する関係機関

区分	連携する関係諸機関
就学義務違反	教育委員会
虐待	まるっとこどもセンター
非行	少年サポートセンター・スクールサポーター

レベル5

年間の出席が10日以下かつ、家庭との連絡が困難な状態

電話連絡や家庭訪問を行う中で、学校が家庭へアプローチしたことを記録として残します。
また、日々の学校対応も記録しておきます。
・電話連絡の際、留守番電話にメッセージを残す。
・家庭訪問の際、手紙を投函しておく。 など

- ① 子どもの命を守ることが最優先です。
- ② 学校とした子どもへのアプローチを続けます。
- ③ 学校は組織的に対応していきます。

重大事案に発展しないための緊急的な連携

- ①長期的に家庭との連携が取れず、「虐待」の疑いがある場合は、管理職に相談し緊急的に関係諸機関と連携する。
→教育委員会へ通告書の写しを提出
→まるっとこどもセンターまたは中央子ども家庭センターに通告・状況に応じて警察に情報提供
- ②学校対応について保護者から過度な要求がある場合。
→スクールロイヤーに相談（教育委員会を通して）